〖 ちょこっと 〗

ちょっと 考えて！ ちょっと立ち止まって！　No 16

豊かさの原動力　家庭に

経済成長が鈍り、従来の発展モデルが再考を迫られている。料理研究家の土井善晴氏は未来を切り開くヒントが家庭や生活の中にあると語る。

今は色々なことが行き詰っている。プロの料理界は進化しすぎ最先端のガストロノミー（美食）は分子料理といった科学の世界まで行ってしまった。音楽家も演奏技術追求が極限に達して壁にぶち当たっている。同じように経済は合理性を過剰に追求してきた結果、地球温暖化や環境汚染が深刻になっている。自然や社会に様々なひずみが生まれてしまっている。

経済の多くは家の外にあるものでまわっている。しかし私たちが根源的な豊かさを感じられるような、まだ発見されていないものは家庭や生活の中にある。誰だって幸せな家庭を築きたいと思っている。それを満たすものこそが次の経済の原動力になると思っている。

女性だけが家事を押し付けられるのはおかしい。大昔には男は狩りに行き女は家を守った。今は女性も外で一生懸命仕事をしている。状況を変えるには男も子供も料理をしてみてはどうか。私が提唱している『一汁一菜』（ごはんと味噌汁）という献立は何にも難しくない。時間や心に余裕があるとき魚を煮たり肉を焼いたりすればいい。

料理は単に栄養を得るものではない。料理は利他性だ。料理を作ることは愛すること、作ってもらうことは愛されることだ。料理があることで家族が生まれる。そのときの家族は誰であってもよい。家のごはんが食べられない子供もいる。自分で料理を作って友だちと食べれば、そこにも新しい家族がうまれる。

経済が弱くなっているのは文化の土台が弱くなっているからではないか。今までの日本は均一な商品を大量に生産してきた。多様性を重んじようといっても結局は均一的な方向に向かってしまう。そういった社会では文化は置き去りにされてしまう。

家庭には多様性がある。それぞれの家にそれぞれのお雑煮があるように、家庭の中に文化がある。ヨーロッパを旅すると我々は豊かな文化に憧れを抱く。彼らには日々の生活を大切にする土台があるからだ。こうした生活の土台がなければ文化は次の世代に引き継がれない。

料理研究家　土井 善晴 氏

成長の未来図　識者に聞く　日経新聞　より

コロナ禍は色々なことを考える時間をくれています。家族がそろって笑みが絶えない食卓であって欲しいと思います。（ごはんをいっぱい食べながら）

菅平米園　園主 須田 正一